

さくらだより

広報

8月号 No.63

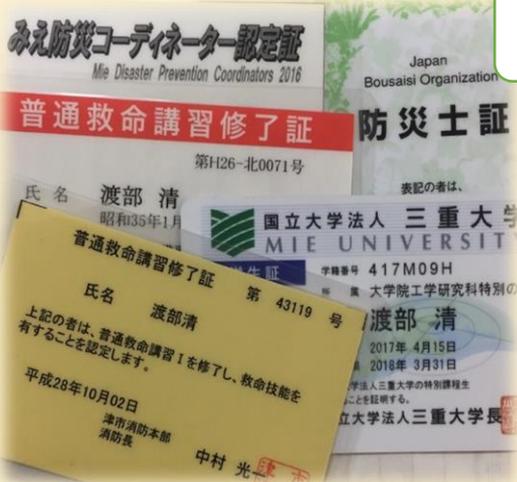
平成 29 年 7 月 発行

夏大好き男、すでに真っ黒に日焼けし、鼻の皮が剥けてきた編集長。
なんせこの季節は海水浴に川遊び、夏祭りに花火大会と楽しい event
盛りだくさんですもんね。でもね、思い出すんですよ36年前のあの夏の
出来事を・・・ポケットの中に花火とマッチを入れて走り回って私、右足
の付け根からなんと煙が。アッと思ったらスポンが燃え出したんです。そ
の後はご想像にお任せしますが、今でも右足の付け根に火傷の跡が残っ
ています。若かりし頃のドジ体験です。えっ今でもドジじゃんって！ そん
な声があちこちから聞こえてきそうですが・・・今月の編集長はドジな長谷川です。



先月号で今期の課題は、「社員一丸」とお伝えしましたが、もう一つ防災対策もとても重要
です。何十年に一度から毎年各地で被害の出ている集中豪雨。前触れもなく突然襲って
くる東海・東南海大地震。いつ最悪の事態に発展してもおかしくない米朝問題と何が起こ
っても不思議でない状況です。そのような環境の中、桜運輸も50周年を無事に迎え、こ
れからさらに60年、70年と企業を存続させるために、今更ですが、事業継続計画
(BCP)なるものを真剣に考えようと思います。幸いにも防災について日夜勉強している
乗務員の渡部がいます。彼は防災で有名な三重大学・川口教授の講義や個別指導を受け、
更に防災士、三重防災コーディネーターの資格と四日市防災大学の基礎課程を修了してい
る防災のスペシャリストです。彼が真剣に防災に取り組むようになったきっかけは、自分
の住んでいる地域の防災意識に対する危機感からだそうです。いつ襲ってくるかわからな
い災害に常に構えることは非常にしんどいですが、「備えあれば憂いなし」ですよね。

地域の防災、桜運輸の防災に
ついて真剣に考えています。





木桜咲弥

桜運輸の新しい仲間の紹介です。ドライバーと事務職、働く場所は違いますが、切磋琢磨し一日でも早く戦力になってほしいなあと考えています。



6月19日に入社した吉田です。桜運輸の求人を見て「育児中の私でも働けるかもしれない!!」と思い切って憧れていたこの業界に飛び込みました。一日でも早く仕事を覚え、スムーズにバックができるよう頑張ります!どうぞ宜しくお願い致します。

蜂須賀です。趣味は料理とパン作りです。結婚して19年、専業主婦をしていました。社長とご縁があり桜運輸に勤務することになりました。社会に出るのは久しぶりなので、かなり不安ですが頑張ります!!どうぞ宜しくお願い致します。



～人材確保のための映像制作～

運送業界だけでなく、どの業界も深刻な悩みとなっている人材不足。この状況を何とか打破しようと愛知県トラック協会さんからある依頼を受けました。その依頼とは、「物流出前授業」と題し、中学生に運送業界は魅力のある、誇りを持てる仕事なんだよ!と紹介する授業で使用するDVD作成のお手伝いです。対象が中学生なので、私のような親父ではなく「若くて爽やかな乗務員」と要請がありました。そこで元高校球児で礼儀正しく、笑顔が爽やかな中村乗務員に白羽の矢が当たりました。インタビューでは少し緊張気味でしたが、学生たちに運送業の魅力や仕事の楽しさ、社会的使命など十分に伝える事が出来た内容だと思います。運送業界の将来をかけたこの撮影。責任重大ですね!

編集長の独り言

～感謝の気持ちを忘れていませんか～

平成7年8月、長女がこの世に誕生したこの年の10月、私は桜運輸に入社をいたしました。長女の年齢＝私の社歴となり、もうすぐ22年になります。7月15日に行った桜運輸(株)創立50周年記念式典では永年勤続表彰を頂きました。自分なりに20年を振り返ってみると面接をうけ「明日から来いや～」と言ってもらった現会長、新人時代に仕事を教えてもらった多くの先輩方、配車を教えてもらったG藤さん、「手配で困った時は俺に言え!どこでも走るから」と言ってくれたT内さん、心が折れそうな時に膝を付き合わせてトコトン話し合った現社長、気が付けば常に誰かに支えられている22年です。そして忘れてならないのが妻の存在です。祝賀会でたくさんの方に声を掛けて頂き、妻が一言、「桜運輸で良かったね」…と、先代が常に言っていた感謝の気持ち。先輩、仲間、家族に感謝します。有難う。有難う。最後に私事ですが、編集長の座を暫く退くことになりました。後任は4か月後に「さくらだよ」デビューします。ご期待下さい。読者の皆様本当に有難う御座いました。感謝!感謝!